

商品ができるまでのことを考えてみよう



私(わたし)たちがふだん使(つか)っているもの(もの)は、材料(ざいりょう)を育て(と)たり、作(つく)ったり、採(と)ったりする人(ひと)、加工(かこう)する人(ひと)、仕上(しあげ)をする人(ひと)など、た(た)くさ(さ)ん(さん)の(の)人(ひと)が関(かん)わって(と)できて(て)います(います)。そう(そう)した(した)中(なか)で(で)給料(きゅうりょう)が(が)と(と)ても安(やす)かったり、休(やす)みが(が)もら(もら)えな(え)な(な)かったり、危(あぶ)険(けん)な(な)こと(こと)を(を)させ(させ)られたり、と、ひどい目(め)にあ(あ)いなが(なが)ら働(はたら)っている人(ひと)たち(たち)も(も)います(います)。商品(しょうひん)を(を)使(つか)う(う)とき(とき)には、ど(ど)の(どの)よう(よう)に(に)作(つく)ら(ら)れている(てい)る(る)か(か)につ(につ)いても、考(かんが)えて(て)み(み)たい(たい)です(す)ね(ね)。

絵:坂本浩子

アムネスティ・インターナショナルは、1961年(ねん)生(な)ま(ま)れ(れ)の(の)国(こく)際(さい)的(てき)な(な)団(だん)体(たい)です(す)。世(よ)界(かい)200(にっ)カ(こ)国(こく)で(で)1,000(いち)万(まん)人(にん)以上(じょう)の(の)人(ひと)が(が)活(くわ)動(どう)して(して)います(います)。は(は)だ(だ)の(の)色(いろ)が(が)ち(ち)が(が)う(う)から(ら)、宗(しゆ)教(きやう)が(が)ち(ち)が(が)う(う)から(ら)、よ(よ)そ(そ)の(の)国(こく)か(か)ら(ら)来(き)た(た)か(か)ら(ら)、女(にょ)性(せい)だ(だ)か(か)ら(ら)と(と)差(さ)別(べつ)や(や)暴(ぼう)力(りき)に(に)苦(くる)し(し)む(む)人(ひと)、政(せい)府(ふ)と(と)違(ちが)う(う)意(い)見(けん)を(を)言(い)っ(つ)ただ(ただ)け(け)で(で)捕(とら)ま(ま)った(た)人(ひと)、紛(ま)争(そう)で(で)自(じ)分(ぶん)の(の)国(こく)に(に)住(す)め(め)な(な)く(く)な(な)った(た)人(ひと)な(な)ど(ど)の(の)命(いのち)や(や)自(じ)由(ゆう)を(を)守(まも)る(る)た(た)めに(に)、政(せい)府(ふ)や(や)社(しゃ)会(かい)を(を)動(うご)か(か)す(す)活(くわ)動(どう)を(を)し(し)て(て)います(います)。ノー(のー)べ(べ)ル(る)平(へい)和(わ)賞(じやう)を(を)受(う)賞(じやう)して(て)います(います)。



あむねし

Vol. 4

アムネスティ子どもニュース

あぶない地球の話

地球(ちきゅう)温(おん)暖(なん)化(か)って(て)聞(き)いた(た)こと(こと)、あ(あ)り(あ)ま(ま)す(す)か(か)? 地球(ちきゅう)の(の)平(へい)均(ぐん)気(き)温(ん)が(が)上(あ)がる(がる)こと(こと)で(で)、そ(そ)の(その)結(けつ)果(こ)、自(じ)然(ぜん)や(や)生(せい)物(ぶつ)が(が)大(おほ)き(き)く(く)影(えい)響(きやう)を(を)受(う)け(け)ま(ま)す(す)。人(ひと)間(かん)に(に)と(と)つ(つ)ても(も)、い(い)ろ(ろ)い(い)ろ(ろ)と(と)困(こ)った(た)こと(こと)が(が)起(お)き(き)て(て)い(い)ま(ま)す(す)。ど(ど)ん(どん)な(な)こ(こ)と(と)が(が)起(お)き(き)て(て)い(い)る(る)の(の)で(で)し(し)ょう(じょう)か(か)。

大きく強くなる台風

昨年(さくねん)7(しち)月(げつ)大(おほ)雨(あめ)が(が)降(ふ)り(り)続(つづ)き(き)、特(とく)に(に)熊(くま)本(ほん)県(けん)南(なん)部(ぶ)で(で)は(は)家(か)が(が)流(なが)される(る)な(な)ど(ど)大(おほ)き(き)な(な)被(ひ)害(がい)が(が)で(で)ま(ま)した(た)。2019(にっせん)年(ねん)に(に)も(も)9(こ)月(げつ)に(に)台(たい)風(ふう)15(ご)号(ごう)、10(じゅう)月(げつ)に(に)19(じゅう)号(ごう)と(と)非(ひ)常(じょう)に(に)大(おほ)き(き)な(な)台(たい)風(ふう)が(が)き(き)ま(ま)した(た)。台(たい)風(ふう)19(じゅう)号(ごう)で(で)は(は)死(し)者(じゃ)・行(ゆ)方(か)不(ふ)明(めい)者(じゃ)が(が)100(ひゃく)人(にん)を(を)こ(こ)え(え)ま(ま)した(た)。

以(い)前(ぜん)か(か)ら(ら)日(にっ)本(ぽん)に(に)は(は)毎(まい)年(ねん)台(たい)風(ふう)が(が)や(や)っ(つ)て(て)き(き)て(て)い(い)ま(ま)した(た)が(が)、最(さい)近(きん)は(は)雨(あめ)や(や)風(かぜ)の(の)勢(せい)が(が)、以(い)前(ぜん)よ(よ)り(り)も(も)強(つよ)く(く)な(な)っ(つ)て(て)い(い)る(る)よ(よ)う(う)です(す)。

地球温暖化は人権問題

国(こく)連(れん)は(は)2020(にっせん)年(ねん)の(の)世(よ)界(かい)の(の)平(へい)均(ぐん)気(き)温(ん)が(が)上(あ)がる(がる)こと(こと)で(で)、北(きた)極(きょく)な(な)ど(ど)

温(ぬ)が(が)、1850(にっせん)~1900(にっせん)年(ねん)の(の)平(へい)均(ぐん)に(に)比(ひ)べ(べ)て(て)約(やく)1.2(いち)℃(ど)上(あ)昇(しょう)し(し)、過(か)去(こ)最(さい)高(こう)だ(だ)った(た)と(と)発(はつ)表(ひょう)し(し)ま(ま)した(た)。こ(こ)れ(れ)は(は)地(ち)球(きゅう)温(おん)暖(なん)化(か)と(と)い(い)わ(わ)れ(れ)、今(いま)世(よ)界(かい)的(てき)な(な)大(おほ)問(もん)題(だい)に(に)な(な)っ(つ)て(て)い(い)ま(ま)す(す)。日(にっ)本(ぽん)で(で)台(たい)風(ふう)が(が)大(おほ)き(き)く(く)強(つよ)く(く)な(な)っ(つ)て(て)い(い)る(る)の(の)も(も)、こ(こ)の(この)地(ち)球(きゅう)温(おん)暖(なん)化(か)と(と)関(かん)係(けい)が(が)あ(あ)り(あ)ま(ま)す(す)。海(うみ)水(すい)が(が)温(ぬ)ま(ま)ると(と)雲(くも)が(が)ど(ど)ん(どん)ど(ど)ん(どん)大(おほ)き(き)く(く)な(な)り(り)、雨(あめ)や(や)風(かぜ)が(が)強(つよ)く(く)な(な)る(る)の(の)です(す)。

台(たい)風(ふう)だ(だ)け(け)で(で)は(は)あ(あ)り(あ)り(り)ま(ま)せ(せ)ん(ん)。日(にっ)本(ぽん)で(で)は(は)2020(にっせん)年(ねん)の(の)静(しず)岡(おか)県(けん)浜(はま)松(しょう)市(し)と(と)2018(にっせん)年(ねん)の(の)埼(さい)玉(ぎよ)県(けん)熊(くま)谷(や)市(し)で(で)、41.1(よんじゅういち)℃(ど)と(と)、観(くわん)測(そく)史(し)上(じょう)最(さい)高(こう)の(の)気(き)温(ん)を(を)記(き)録(ろく)し(し)ま(ま)した(た)。ヨ(よー)ロ(ろ)ッ(っ)パ(ぱ)で(で)も(も)し(し)ば(ば)し(し)ば(ば)異(い)常(じょう)な(な)高(こう)温(ん)が(が)起(お)き(き)、2003(にっせん)年(ねん)8(はち)月(げつ)に(に)は(は)フ(ふ)ラ(ら)ンス(す)で(で)44.1(よんじゅうし)℃(ど)を(を)記(き)録(ろく)し(し)、約(やく)1(いち)万(まん)5000(ご)人(にん)が(が)死(し)亡(じやう)し(し)ま(ま)した(た)。

に(に)あ(あ)る(る)氷(こ)も(も)溶(と)けて(て)い(い)ま(ま)す(す)。海(うみ)の(の)形(かたち)は(は)変(か)わ(わ)ら(ら)な(な)い(い)の(の)に(に)海(うみ)水(すい)が(が)増(ぞう)える(る)の(の)で(で)、海(うみ)面(めん)が(が)上(あ)がり(り)陸(りく)地(ち)が(が)減(げん)り(り)ま(ま)す(す)。そう(そう)な(な)ると(と)、こ(こ)れ(れ)ま(ま)で(で)住(す)ん(ん)で(て)いた(た)海(うみ)岸(ぎし)近(きん)く(く)の(の)家(か)に(に)住(す)め(め)な(な)く(く)な(な)り(り)ま(ま)す(す)。太(たい)平(へい)洋(やう)に(に)あ(あ)る(る)島(しま)国(こく)キ(き)リ(り)バ(バ)ス(ス)



絵:多屋光孫

は、今世紀末までに海にしずむと予測されています。そこに住んでいる人たちはどうすればいいのでしょうか？

気候や気温が変われば、作物にも影響します。気温がどんどん上がれば畑だった土地が砂漠になり、食料の生産量が大きく減ってしまいます。そのため、世界的に食べ物が不足すると心配されています。

このように、地球温暖化は、人びとの暮らしに直接影響します。環境問題であるだけでなく、人権問題でもあります。

若者の力で世界を変えよう

地球温暖化は、二酸化炭素など

の温室効果ガスが増えすぎたことが原因と考えられています。その原因を作ったのは人間です。人間は、石炭や石油を燃やしてエネルギーにし、スイッチを押せば電気がつくような快適な生活を手に入れました。その結果、大量の二酸化炭素を出してきました。

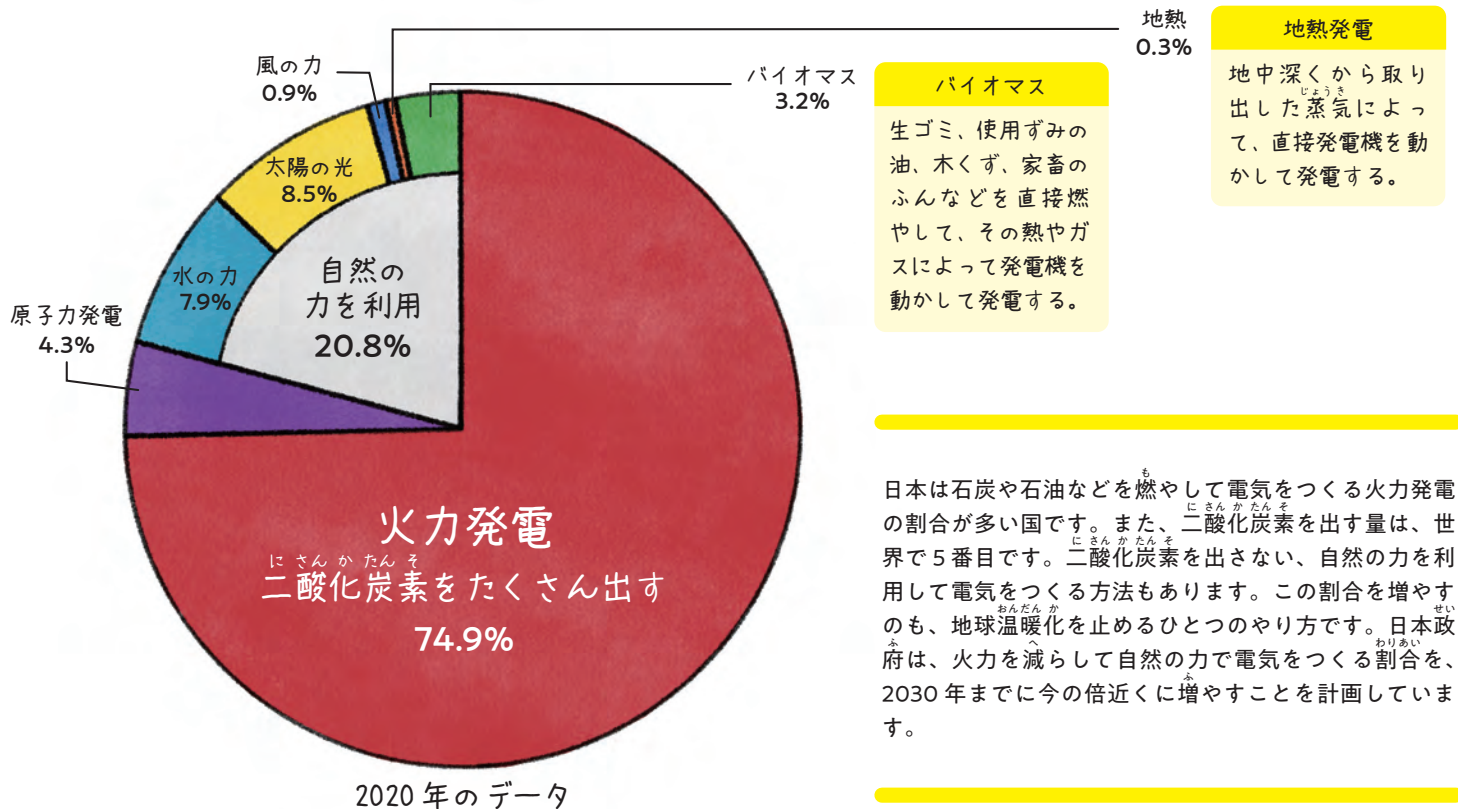
また、森の木を切り住宅地にしてきました。二酸化炭素は木がすって酸素に変えてくれますが、木が減ったため二酸化炭素をすう力も弱くなっています。

これまでのようなエネルギーの使い方はまちがっていたとようやく気づき、世界的に地球温暖化を止めようという取り組みが始まっています。しかし、大人たちはこれまでのやり方を変えたくない、変えるとこれまで通りのお金もう

けができなくなる、と考える人もいて、かんたんには変わりません。でも、地球温暖化の影響が一番受けるのは、これから生きる子どもたちです。災害で家に住めなくなったり、暑さで病気になったり、食べ物が満足に手に入らなくなったら？ 子どもは、健康に育つ権利があります。

まず、世界でどんな問題が起きているかを知ることから始めましょう。そして、どうすればいいか、自分でできることはないか考えてみる。たとえば、電気をこまめに消す、といったかんたんなこともあります。さらに、仲間を集めて世の中を変えるための提案を試してみる。できることはいろいろあります。若い力で世界を変えていきましょう。

日本の電気はどうやってつくられている？



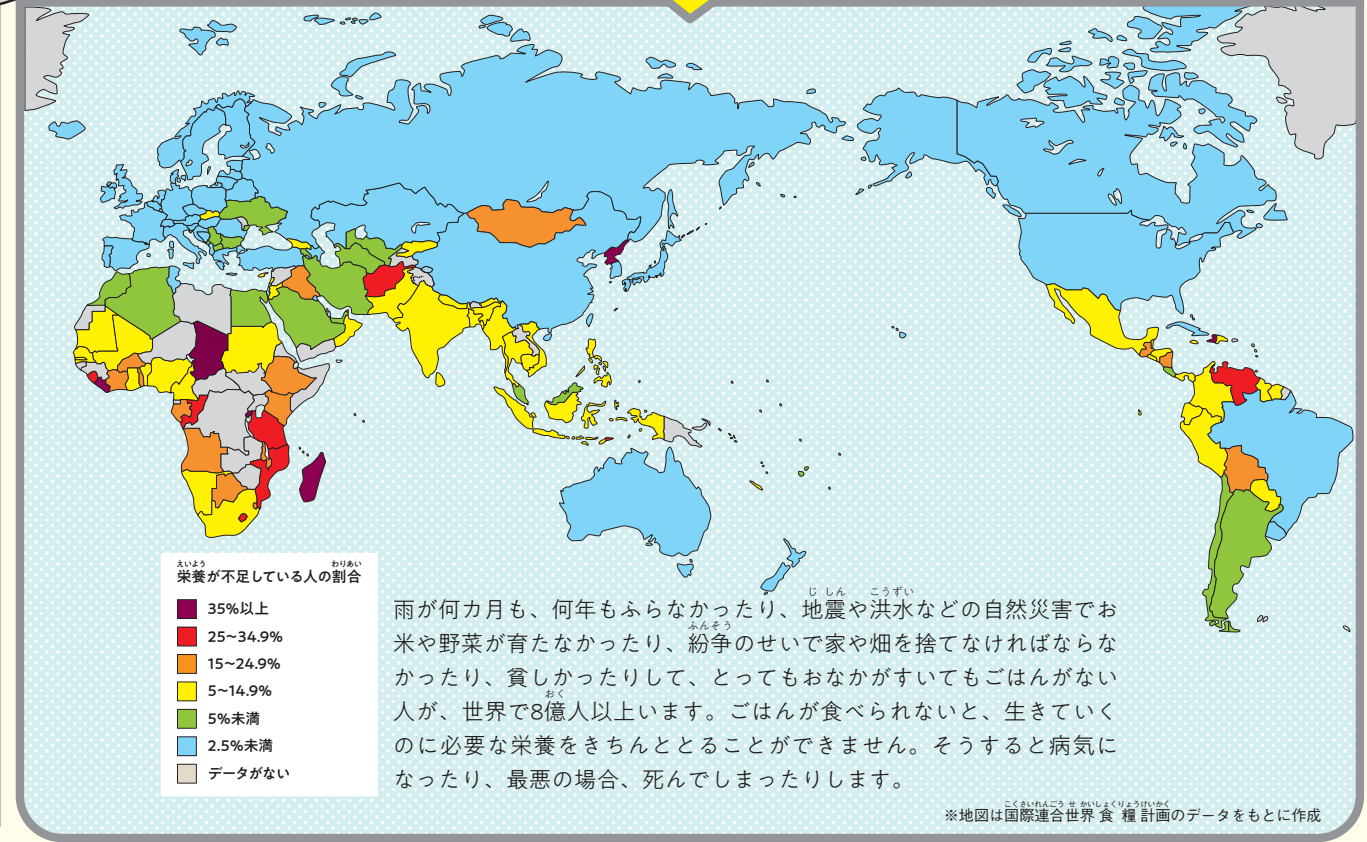
バイオマス
生ゴミ、使用済みの油、木くず、家畜のふんなどを直接燃やして、その熱やガスによって発電機を動かして発電する。

地熱発電
地中深くから取り出した蒸気によって、直接発電機を動かして発電する。

日本は石炭や石油などを燃やして電気をつくる火力発電の割合が多い国です。また、二酸化炭素を出す量は、世界で5番目です。二酸化炭素を出さない、自然の力を利用して電気をつくる方法もあります。この割合を増やすのも、地球温暖化を止めるひとつのやり方です。日本政府は、火力を減らして自然の力で電気をつくる割合を、2030年までに今の倍近くに増やすことを計画しています。

地図からわかる 世界の問題

9人に1人が、おなかがすいても食べるものがなくて苦しんでいます



子どもにだって権利がある！

第4回 国は子どもが生きて育つ権利を守らなければならない

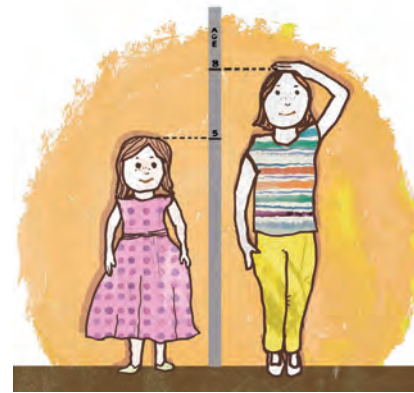
今回紹介するのは、第6条です。「」内の文章は、元々の難しい条約(国と国との約束)の文章をわかりやすくした、日本ユニセフ協会による日本語訳から引用(そのまま使うこと)しています。

第6条は、「すべての子どもは、生きる権利・育つ権利をもっています。」です。すべての生まれてきた子どもは、生きて成長する権利があるのです。ここでは子どもが主語になっていますが、もともとの条約の主語は「締約国は、」です。締約国とは、条約を守ることを約束した国のことです。つまり、国は子どもが持っている権利を、しっかり守らなければならないといっているのです。

もちろん、病気や事故で小さいうちに死んでしまうこともあります。残念ながら、すべての病気が治せて、事故が防げるわけではありません。ただ、国は子どもが安全に生き、育つための環境を用意しなければいけ

ません。例えば、安全できれいな水や、成長に必要な食べ物、親や家がない子には安全にくらせる場所などです。世界には、きれいな水が飲めなかったり、食べ物がなかったりするために、死んでしまう子どもがたくさんいます。そんな子どもが1人でも少なくなるように、世界中の大人は努力しなければなりません。

第7条は、名前と国籍(国民であるという資格)を持つ権利です。名前がないと誰かわかりませんし、国は国民を守らなければならないので、国籍がないと守ってもらえません。次回みんなで考えてみましょう。



絵: 多屋光孫